

フォレストニュース

植林が地球を救う

令和6年(2024)2月10日

No. 193

発行 高津啓洋

特集：日本の森に必要な間伐

【道路工事でわかった荒廃林】



紀伊半島、熊野の本宮の近くの人工林の写真です。

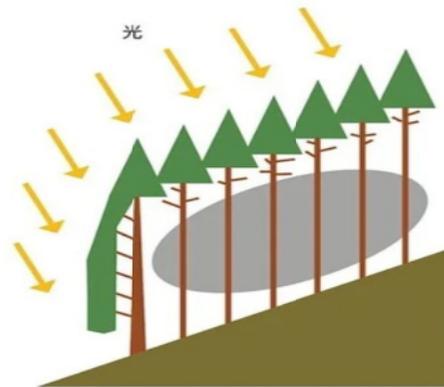
これは崩れたのではなく、道路工事で山を切り開くことで林内の様子がよく解るといふ例です。伐る前は緑が下まであって、一面緑の葉に覆われていました。森の中まで知らない人がそれを見れば「ああ美しい緑の山だ」と思いますが、ここを伐ると中があらわになり、中の荒廃状態（森の中の砂漠化）が解ります。

細い木の上に緑がちょっと付いていて、外観から『線香林』と呼ばれます。林内は緑の植生はまったくないわけです。自然林を人工林に変え

て、その手入れを放棄したために、林床に光が射さない森が生まれ、生態系が機能してない状況。地面に石が浮いて、木の根っこがむき出しになっています。その状況は水源を涸らせ、土砂を河川に流し、山の崩壊の危険を帯びて、いま私たちの暮らしを間接的に脅かしています。花粉症の猛威と集中豪雨の被害の根本原因ともいえます。

生きた枝が少なく、下は幹だけで、緑の葉っぱが樹高の1/3よりも小さい。こうなると、間伐しても残した木を育てることが難しくなります。木の特性として先にしか成長点を伸ばせないの、幹から下は緑は再生しにくい。下の幹からは枝がなかなか出なくて緑葉が追いつかなくなります。ですから、これは間伐しても木を太らせることは難しく、残念ながら森を再生するには手遅れ…ということになります。

間伐がすでに手遅れになった山が、紀伊半島を始め全国の80%と言われています。林野行政や山に住んでいる方、私たち植樹に関心がある人が認識し、対策に取り組む必要があ



④枝葉がさらに混み合いながら背丈だけが伸び、下枝が枯れてくる

間伐しないと人工林は荒廃する



③さらに成長すると枝葉が触れ合う。ここで間伐をしないと……

ります。

【人工林の生長と間伐】

人工林をつくるため最初にスギ・ヒノキの苗木を植えます。この段階では地面に光が当たって間から草や広葉樹が再生してくるので植えた木を育てるために下刈りをします①。

これを最低でも5～7年繰り返して、この苗木が下刈りの草木の背丈を抜けると下刈りが完了します②。

次に植えた木の成長にもなって葉と葉が触れ合うようになるので少し伐って間引く必要がでてきます。これが間伐になります。これをしないで放置すると最初の写真のような『線香林』になってしまいます④。林内に光が射さないの、下から枝がどんどん枯れ上がってきて、背丈だけが伸びる。

林業技術で言うと、いちばん外側の木は林内が乾燥しないように「枝打ち」しないで下まで枝を残すのが

通例ですが、自然に放置すれば林縁は片側だけ充分光が当たりますから、上の図のように生き枝が残る。

そうすると、この木だけは緑の葉っぱが多いので、間伐遅れのどんな酷い山でも外からみると素敵な森に見えるので、他の人は森が手遅れになっていることに気が付かないのです

なぜ、スギ・ヒノキの苗木を植えたのか？せつかく植えた木を間伐してないのか？を次号で説明します

【環境問題セミナー開催】

ONLINE環境セミナー 森林破壊編⑥

「森が災害から守ってくれた」

～宮脇方式にみる植樹活動の基本～

日程：2/17 (sat) 21:00～22:30

ZOOM 配信で行います。

参加希望の方はQRコードから申込をお願いします

